

不登校対策支援プラン

プランの策定にあたって

更新日 4 月 1 日

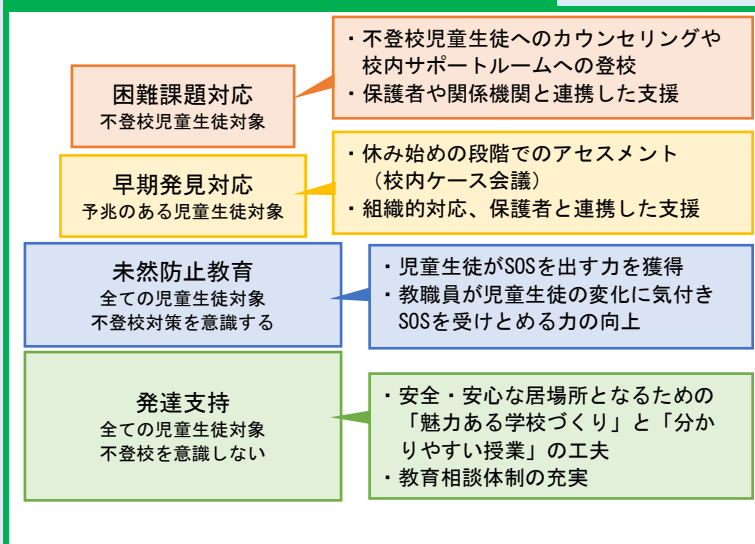
県内において不登校児童生徒数が増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 多様性や個性を認め伸ばし、「やってみよう科」等を通して児童が自己有用感や自己肯定感を高めながら安心して通い続けることができる学校づくりをすすめる。
- 2 児童、保護者の状況を的確に把握し、多様性や個性に応じた支援方針を定め、どこにも支援につながない児童がないようにする。
- 3 「ハカセの時間」等を通して、学びへの意欲や学ぶ習慣を含む生涯を通じた学びの基礎となる力を育てる。

不登校対策における重層的支援構造

参考：生徒指導提要R4.12



不登校対策チーム構成

管理職、不登校担当、生徒指導（生活指導）担当、学年代表、養護教諭、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、該当担任等

不登校児童生徒支援関係機関等

教育支援センター「さつき学級」、青少年育成センター、こども未来課、地域学校協働活動、学校評議員会、スポーツクラブ21、子ども食堂

4つの層での取組 等

発達支持

- ・一人ひとりを認め、肯定的な評価を与えることで自己肯定感や自己有用感を高める。
- ・対話と活動を重視し、粘り強く段階的な指導・支援を行う。

未然防止教育

- ・「分かる授業」の工夫、すべての子どもたちが存在感を得られる「居場所づくり」、互いを認め合う場や機会を設定する「絆づくり」を通して魅力ある学校づくりをする。
- ・家庭訪問を組織的・計画的に行う。

早期発見対応

- ・心の健康観察、個別面談や家庭訪問の機会を利用して、小さな変化に気づく。
- ・休み始めの兆候を見逃さず、全職員で共通理解のもと「チーム学校」の体制で丁寧に対応する。

困難課題対応

- ・スモールステップで成功体験を積み重ねることで、現状と段階に応じた居場所づくりと支援をすすめる。
- ・相談室や保健室など、別室で安心して過ごせる場所を確保する。